

「文化と産業の交流拠点」が
来春完成
元府議会議員公舎(富岡鉄斎旧邸宅)
を活用・再整備



●完成イメージ模型 ©K.ASSOCIATES

来年3月の文化庁京都移転に合わせ、本所では文化を活かした京都の産業振興と新たな価値創造につなげるため、文化と産業の交流・連携、情報発信の拠点となる施設を整備しています。本事業は本所の創立140周年記念事業の一環として進めており、来春に完成予定です。

施設概要

- 建設地 上京区室町通一条下ル薬屋町
- 敷地面積 約1,270㎡
- 延床面積 約400㎡
- 建物構造 鉄筋コンクリート造・木造 地上1階建

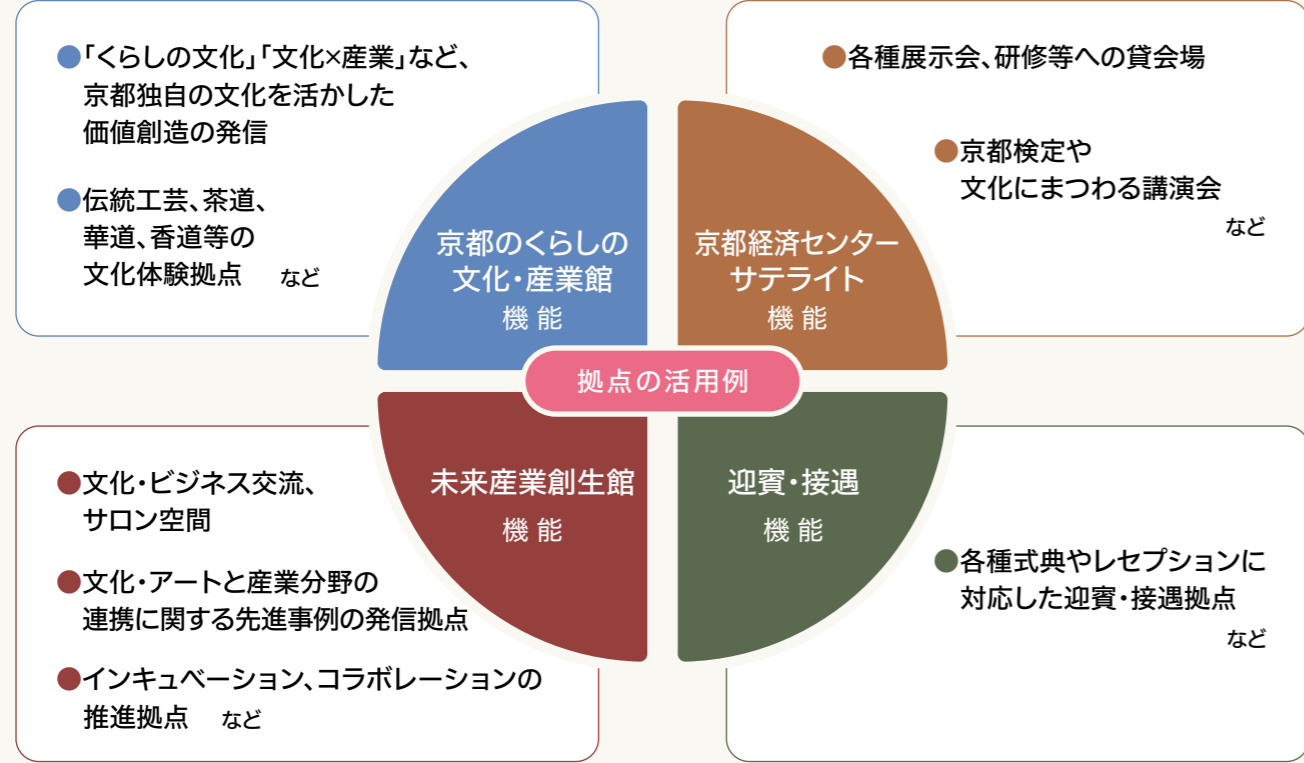
- 本館** 約250㎡
 - 多目的(洋)ゾーン
文化と産業の交流・融合や情報発信など多目的な使い方に対応する明るい光の入るバリアフリーなゾーン
 - 旧富岡鉄斎邸(和)ゾーン
旧富岡鉄斎邸の茶室・画室・和室の趣を保存・再生し、縁側から臨む整備された庭と一体感を保ち、日本文化の創造的な使い方を誘発するゾーン
- 別館** 約150㎡
 - 文化庁利用施設



●解体前の画室外観。一部の部材を再活用し保存・再生する。
©京都工芸繊維大学清水研究室

建設地は明治・大正期の文人画家で儒学者の富岡鉄斎の旧邸宅があった場所です。2012年まで京都府議会議員公舎として使用されていた土地・建物を、本所が京都府より無償で貸与を受け、既存建物を再利用し、整備するものです。旧邸宅にあった茶室や画室など和の趣を保存・再生するとともに、文化と産業の交流や情報発信する洋のゾーンを新たに設けます。

本事業の整備に当たっては、本所監事であった株式会社福寿園の故福井正典名誉会長からのご寄付を頂戴し、整備費の一部に充当させていただきます。



富岡 鉄斎 とみおかてつさい
天保8(1837)年1月25日-大正13(1924)年12月31日

明治・大正期の文人画家・儒学者。
三条通新町東の法衣商十一屋伝兵衛富岡維叙の次男として生まれる。
明治14年(1881年)、京都薬屋町(室町通一条下ル)に転居し、終の住処とする。
大正13年(1924年)大晦日、自宅にて没する。享年89歳。
生涯を文人として貫き、その自由で奔放な画風は近代日本画に独自の地位を築き、梅原龍三郎や小林秀雄らが絶賛。日本のみならず世界からも、今なお高い評価を受けている。
2024年には鉄斎没後100年を迎える。

